

経営比較分析表（令和3年度決算）

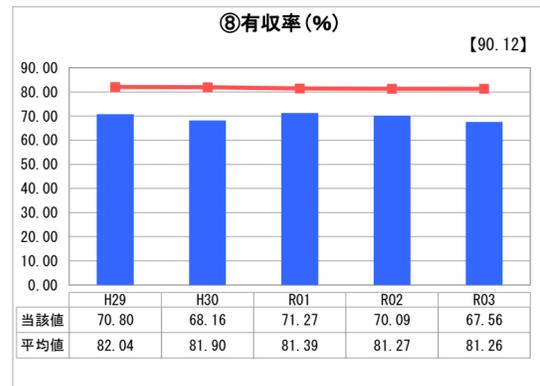
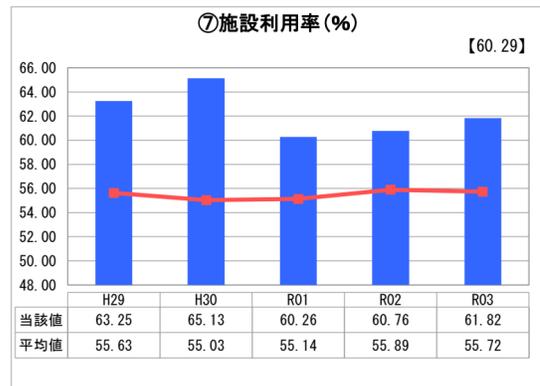
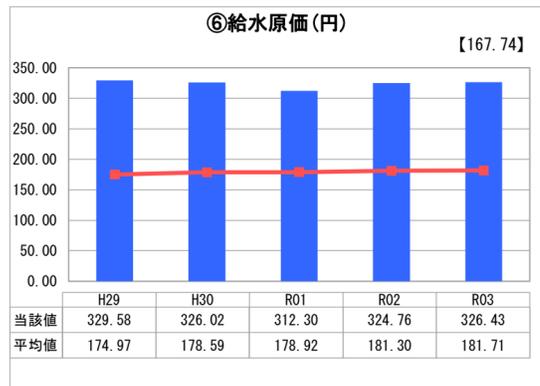
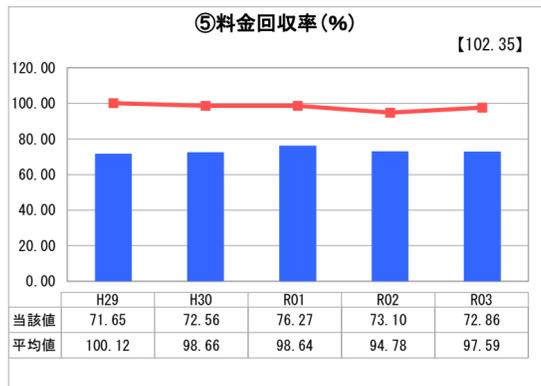
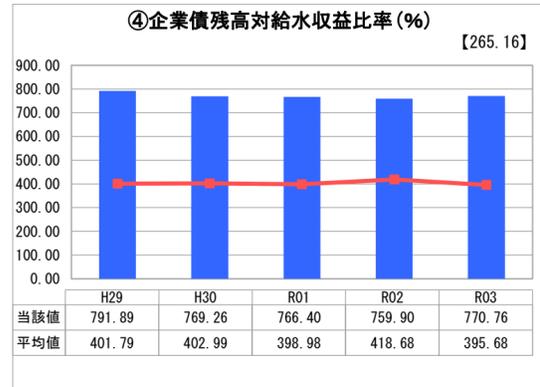
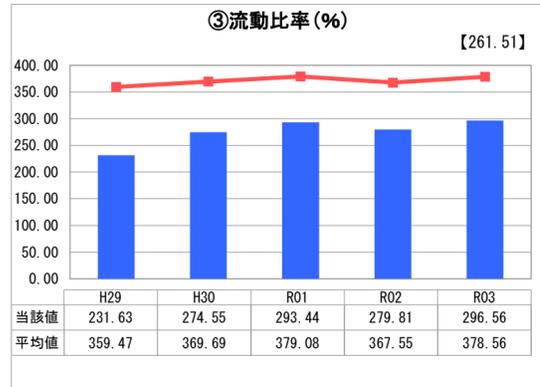
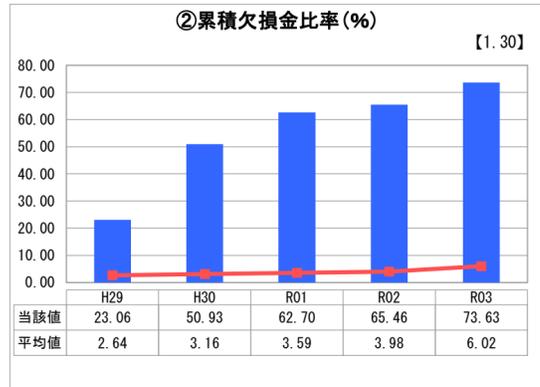
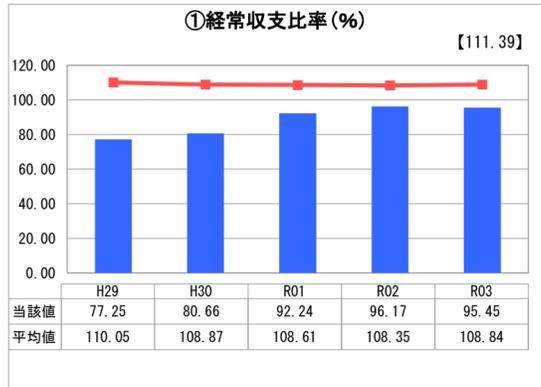
長崎県 西海市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	43.37	98.18	4,596	

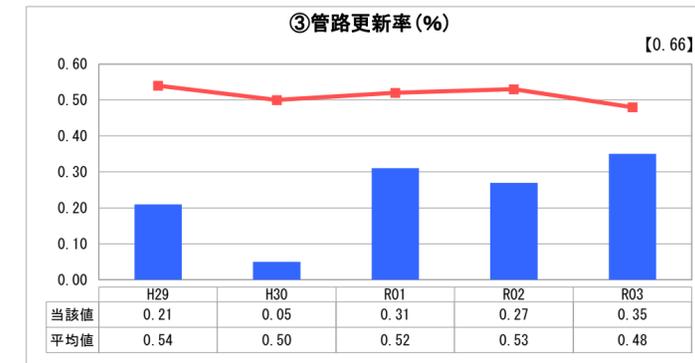
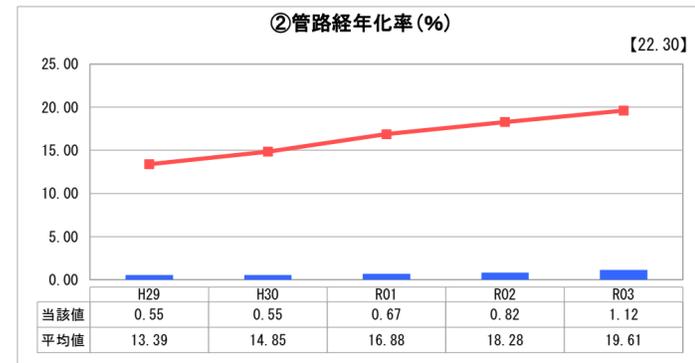
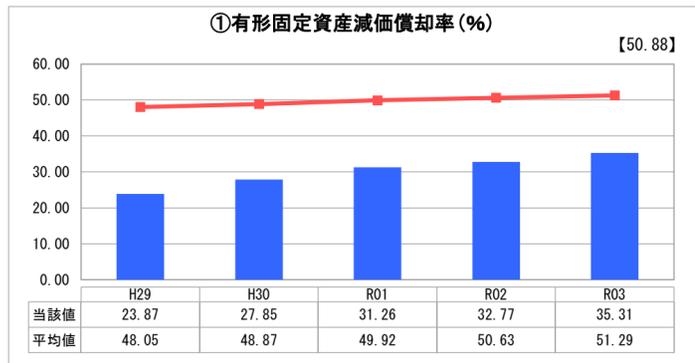
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,323	241.60	108.95
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,669	175.00	146.68

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[]	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：赤字であった簡易水道事業との統合（平成29年度）以降、大幅に低くなっている。徐々に回復傾向にあるものの、対前年度比は横ばいで、経営状況的には目立った変化はない。

② 累積欠損金比率：簡易水道事業との統合以降発生しており、今年度も累積欠損が生じている。

③ 流動比率：簡易水道事業との統合後の動向を注視しているが、緩やかに上昇傾向にあり、現状では特に問題ない。

④ 企業債残高対給水収益比率：減少傾向にあったが、昨年度に比べて給水収益が減ったため、比率が高くなっている。今後も高い水準で推移することが見込まれる。

⑤ 料金回収率：簡易水道事業との統合により低い水準で推移している。今後の状況次第では料金改定等の検討も必要となってくる。

⑥ 給水原価：簡易水道との統合により上昇し、今後も高い水準で推移することが見込まれる。

⑦ 施設利用率：昨年度より微増しており、今後も施設の効率性を念頭に整備を行う。

⑧ 有収率：昨年度より微減しており、今後も計画的な施設整備による改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

経営戦略を策定し、老朽化施設の更新を計画的に実施しているが、依然として多くの老朽化施設が存在している。水道サービスを安定して供給するため、今後も経営状況を見ながら、計画的に更新していくことが必要である。

全体総括

安定した水道サービスの供給のため、経営戦略に基づき、経営状況を見ながら計画的に更新事業を行っていく必要がある。累積欠損金が継続して発生している状況であることから、有収率の向上や、施設効率化の向上、料金改定等について検討していく必要がある。